

知床学(海洋教育)～地域の様々な活動を知り、自然とのつながりを深める～

藤本 郁美、井上 亜矢
(羅臼町立羅臼幼稚園)

今年度は、地域の自然や産業を通じた学びの場を活用し、自分達の住んでいる町や地域、町の産業などを知り、自分達が暮らす町の環境が大人になっても変わらずにあるように気付きや発見ができるよう、様々な体験や活動を行ってきました。

市場見学では、羅臼の海で 300 種類の魚や美味しい魚が獲れることを漁協の方に教えてもらい、市場見学の後は、漁協直営の海鮮工房に行き、せりて売られた魚が商品として並んでいる所を見学しました。給食で魚のメニューが出ると「この魚がああ魚なんだ」と市場で学んだことを思い返し、魚が苦手な幼児も食べてみようとする姿に繋がりました。



市場で魚を見学する幼児



海鮮工房で見学す幼児

小学生が自分達が住む町をきれいにしようとクリーン作戦を行っているのを知り、自分達にもできることはないかと考え、5歳児がごみ拾いに出かけました。幼稚園の遊具に登り、「ごみはないかな？」と探したり、「こんなところにもゴミがあった」などと町に落ちているごみの様子を見て、「自分達はごみを外に捨てないのにどうして大人はごみを捨てるんだろう」「いっぱいごみ箱を置いたらいいんじゃない?」「お父さんにも捨てないでって言う」など町をきれいにするための考えを話し合っていました。また、小学生から地元の海で獲れる昆布や鮭などについて話を聞き、「大人になったらみんなで昆布漁師になろう!」「海をきれいにしないと魚がいなくなる」といった考えをもつ幼児もいて、海と環境について学ぶ機会となっています。

地域との交流も多く、羅臼の海で獲れたホッケを使いホッケのすり身作りをしてくださいました。幼児の目の前でホッケをさばいてくれ、生き物の命の大切さなどを知ることができました。すり身作りの後、泥遊びをしていた幼児が泥の混ざり具合と感触から、「ホッケのすり身みたいだね」と体験したことを遊びに生かし、経験へと繋げていきました。その他にも、更生保護女性会の仕事が、「みんなが立派な大人になるまで見守っている」ということを聞き、地域の方と触れ合うことで地域の方に見守られていると実感したり、人と関わる素晴らしさを感じることができています。



ゴミ拾い



ホッケをさばいている所



すり身作り



幼児も一緒にすり身作り



更生保護女性会との交流



「地域の様々な活動を知り、自然とのつながりを深める」

【ねらい】

地域の自然や産業を通した学びの場を設け、幼児に地域の自然や産業の魅力を感じてもらう活動や、身近にある自然や環境から気付き発見する姿を目指し、幼児自身が「やてみたい」という気持ちにつながる体験ができるように進めていく。

○時期 5月～3月

